
2026年度 第1回 介護医療連携推進会議

●開催日時 2026年 8月17日(月) 13:30～14:30

●開催場所 在宅支援センター 甲州ケア・ホーム東側会議室

地域住民代表者：川合、原野、太田

笛吹市：菊島（霜村欠席）

施設側役職員：望月、関口、土橋（矢野欠席）

2026年度、第1回目の介護医療連携推進会議を開催いたします。

1. 自己紹介

本年度より委員に就任された方もいるため、自己紹介を行う。

本日、急な訪問により事業所長の矢野は欠席。本年度より事業所長に着任。

2. 議題

◎ 事業所の現状報告について

関口施設サービス課長より報告（別紙資料参照）

（1）定期巡回サービスについて

・サービスの概要について説明。

（2）利用状況・訪問状況

・令和8年7月末現在、定期巡回サービス契約者は8名（うち2名は施設サービス利用中のため休止中）。

・新規利用者3名、利用終了者5名。

・利用につながらなかったケースはなし。

・地域別利用状況は、石和3名、御坂3名、一宮1名、八代1名。（境川、春日居、芦川の利用者なし）

・訪問時間は1日20分未満の訪問がほとんどであるが、体調不良や身体介護等により、訪問時間が長くなることもある。

・要介護度によって定額料金が上がる一方、訪問回数には大きな差がない状況にある。訪問は必要であるものの、要介護度に見合った訪問回数や訪問時間となっていないケースもある。

（3）サービス利用者状況（令和8年2月～令和8年7月）

・新規サービス利用開始者3名（うち2名はすでに利用終了）。

・利用終了者5名。

・利用終了の内訳は、訪問介護への移行、看取り、救急搬送後に入院し入院先で死亡、利用開始後数日でショートステイを利用、カスタマーハラスメント事案と認定されたケース等。

（4）事業所の課題

・定期巡回サービスの認知度不足。

・要介護度の低い利用者は生活支援ニーズが高く、サービスの特性を十分に活かせない場合がある。

・認定された要介護度と実際の介護度にギャップがあり、見直しが必要なケースがあるが、調整が難しい。

・一人暮らしや身寄りのない高齢者の生活全般を支えるため、介護保険制度でカバーできない部分の支援負担が事業所にかかっている。

・訪問職員の安全確保や精神的負担、勤務環境の改善は喫緊の課題である。

・カスタマーハラスメントへの対応経験があり、家族との関係調整が難しいケースがある。

（5）事業所の取り組み（アクションカード）

訪問職員は基本的に1人で行動することが多く、緊急時や災害時等に慌てずに行動するため、「アクションカード」を導入している。

山梨県内で本年6月深夜に発生した最大震度6弱の地震及び本年7月の熊本地震への対応経験から、訪問時

における安全確保の重要性を再認識した。職員が利用者の安否確認のために訪問するという判断は適切であったのか、安否確認訪問の時間帯や方法について、事業所内で検討を重ねている。
また、災害時には事業所だけでなく、家族やケアマネジャー、地域住民との連携が不可欠であるとの方針を確認した。新規利用者の契約時における災害・緊急時の説明を強化するとともに、アクションカードの避難誘導箇所の記載など、内容を更新し、継続的にブラッシュアップしていく必要がある。

◎ 事業所における自己評価・外部評価

- ・自己評価について報告（別紙のとおり）。
- ・自己評価をもとに、外部評価を依頼した。
- ・前回の連携推進会議において、外部評価について利用者（家族）など関係者の意見を反映してはどうかとのご意見をいただいたため、今年度の外部評価から利用者家族に協力を依頼し、実施した。
- ・評価項目について「難しい」とのご意見もあったが、おおむね自己評価と同様の評価をいただいた。また、「困ったときにはいつでも対応してもらえる安心感がある」とのご意見をいただき、事業所の特性を活かしているのではないかと考えている。

3. 質疑応答・ご意見

- 定期巡回サービスについて、地域に貢献する良いサービスであると思うが、職員 3 名で月 400 回ほどの訪問を行うことは大変ではないかとの質問があった。
⇒短時間で効率よく訪問できる場合は問題ないが、状況によっては 1 回の訪問でかなりの時間を要する場合もある。介護度に応じた定額制であるため、利用者 1 人あたりの訪問回数や効率的な運用が課題であると説明した。
- 1 日に何回訪問しても、また月に何回訪問しても定額報酬となるため、かなりの業務負担ではないかとの意見があった。
- 24 時間対応とは、夜勤体制で訪問しているのかとの質問があった。
⇒定期訪問は日中の時間帯に行っており、緊急時等は夜間を含め、随時訪問する体制となっていることを説明した。
- 介護度や状態によっては、定期巡回サービスではなく訪問介護を利用した方が適切なケースがあり、サービスの最適化が必要であるとの意見があった。
- 家族の介護を経験しており、介護の大変さを実感しているとの意見があった。
特に、ベッドからのずれ落ちへの対応に大変さを感じており、その中で、ベッドを低くすることや、ベッド横に柔らかいものを置くなどの工夫をしていたとのことであった。
- 認知症の利用者はいるかとの質問があった。
⇒ほとんどの利用者が認知症であると説明した。対応の難しさや、トラブル発生時の支援体制について意見交換を行った。
また、カスタマーハラスメントについて、対応の難しさに対する指摘もあった。質の良いサービスの提供と職員の安全の両立が重要であるとの意見があった。
- 山梨県内で発生した地震及び熊本地震への対応経験から、アクションカードの運用について、災害・緊急時の訪問判断基準の曖昧さとリスクが浮き彫りになった。今後は職員の安全性を優先した運用を徹底し、アクションカードをさらにブラッシュアップしていく必要があるとの意見があった。
- 現在、利用の少ない地域へも働きかけを強化するとしているが、訪問地域を広げても事業継続が可能かとの質問があった。
⇒利用状況に応じて広域対応を続けているが、遠距離訪問による非効率性は課題となっていると説明した。

4. おわりの挨拶

本日いただいたご意見やご質問を今後の事業運営に活かし、よりよいサービスを提供できるよう努めてまいります。また、事業を継続していくにあたり、今後とも皆様のお力添えをいただきたいと考えております。

本日はお忙しいところ、ありがとうございました。

< 次回開催について >

2026年度第2回の会議は、2027年3月8日（月）16：00～を予定しております。

追って、ご連絡させていただきます。